

巻頭の辞

神戸市立病院紀要第 56 巻が刊行の運びとなりました。昭和 36 年から半世紀以上に渡り続いてきた紀要は、神戸市民病院群の諸先輩達による大変な努力と業績の積み重ねや、人材育成なくしてはありえなかったことであり、あらためて敬意を表したいと思います。

平成 29 年度に神戸市民病院機構は独法化後 9 年目となり、大きな節目を迎えました。4 月はこれまで神戸市地域医療振興財団が運営していた西神戸医療センターが当機構に移管、11 月には先端医療センター病院が中央市民病院に統合され、12 月は神戸アイセンター病院が開院しました。市民のための医療をより豊かなものにし、また医療の偏在の無い誇れる地域医療体制を整えることができたものと考えています。

今後、臨床研究をより力強く推進していきますが、臨床研究推進は我々自身がより良い医療をつくり、実践していくための一つのアクションであり、志ある優秀な人材育成のカギでもあります。高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データを下に、盛んに臨床研究を行うことにより、医療水準を高く保ち、市民から信頼される市民病院となります。これらの医学医療の進歩への貢献、医療の質向上と、優秀な医療人の育成は当機構の重要な使命であると認識しています。

神戸市立病院紀要が今後も益々充実し、多くの情報や示唆を与え、職員間での情報共有の役割を担い、臨床研究と実践に寄与することを願っています。

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

理事長 橋本信夫